

水稻の生育状況と今後の管理対策（第9号）

令和8年8月20日
新潟県農林水産部

- ◎ 出穂期が平年より早まっており、収穫適期は早まる見込みです。極早生品種は収穫期となっています。
- ◎ 整粒歩合を高めるため、早めに籾の状態を確認して適期に収穫するとともに、丁寧な乾燥・調製を行いましょう。
- ◎ 作業の際は、熱中症対策を必ず行いましょう。

〔生育概況〕

- 主要品種の出穂期（県調査ほ）は、こしいぶき^{*1}で平年に比べ4日早い7月20日、コシヒカリで5日早い7月29日、新之助で3日早い8月8日でした。

^{*1} こしいぶきは、出穂期調査結果の県平均

〔気象予報〕

- 8月20日発表の北陸地方1か月予報（8月22日から9月21日）では、気温は高く、降水量は平年並か少ない、日照時間はほぼ平年並と予報されています。

〔今後の管理対策のポイント〕

水管理

- コシヒカリや新之助では、登熟向上のため、飽水管理^{*2}を出穂期25日後まで継続しましょう。今年は、登熟期間が高温で経過しており、今後も高温が続くと見込まれるため、可能な限り出穂期30日後まで継続し、継続できない場合はかん水可能期間の終期には十分かん水しましょう。

適期収穫

- 地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報、出穂後積算気温表などを参考に、必ずほ場ごとに籾の黄化割合を確認し、適期である85～90％程度で収穫しましょう。茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合もありますので穂をよく観察してください。
- 収穫期直前（籾水分が22％未満、出穂後積算気温900℃以降）に空気が著しく乾燥すると胴割粒が急激に増加します。県が「異常高温緊急情報（高飽差）」を発出した際には、できる限り速やかに収穫を始めてください。

＜極早生・早生品種＞

- 既に収穫適期となっているほ場があります。早めに籾の黄化割合を確認し、適期に収穫しましょう。

＜コシヒカリ＞

- 登熟期間が高温で推移しているため、白未熟粒等の発生が懸念されます。刈り遅れにより基部未熟粒が増加するため、適期に収穫しましょう。

＜新之助＞

- 胴割粒の発生が特に懸念されるため、籾の状態を確認し、遅れずに収穫しましょう。

乾燥・調製

- 乾燥作業中の胴割粒の発生を防ぐため、収穫時の籾水分が低い場合には、乾燥機に張り込んだ後に通風循環するなど、水分ムラを解消させてから加熱乾燥を行いましょう。必ず手持ちの水分計で仕上げ水分を確認してください。
- 丁寧な籾すり・選別を行い、未熟粒や被害粒等を除去し、整粒歩合を高めましょう。

強風被害後の対応

- 強風により白穂や変色籾の被害があった場合は、収穫・乾燥・調製を被害のないほ場と区分して行いましょう。
- 調製は、流量を少なくし丁寧な選別作業を行った上で、色彩選別機により着色粒を除去しましょう。着色粒やその他未熟粒が多い場合は、1.9 mm以上の篩目に変更しましょう。

*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、帽子等で直射日光をさえぎるほか、暑さ対策用品を活用して身体を冷やすなどの熱中症予防対策を必ず行いましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめにとるなど、十分配慮してください。
- 1人で作業されている方に対しては、周囲からの積極的な声掛けをお願いします。

農作業安全

- 農業機械を運転するときは、シートベルト・ヘルメットを必ず着用しましょう。また、公道走行する場合は、法令を遵守しましょう。
- 収穫作業時のコンバインの転倒・転落や、タオル、衣服、軍手などの動力部への巻き込みに十分注意しましょう。
- できるだけ2人以上で作業し、やむを得ず1人で作業する場合は、家族などへ行き先を告げるとともに、緊急時に連絡がとれるよう、携帯電話を身につけておきましょう。

盗難防止

- 作業場のシャッターや保管場所は施錠し、防犯カメラをつけるなど、盗難防止対策を強化してください。

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



7月～9月は“夏の熱中症等対策声かけ期間”

キャッチフレーズ:いのちをうばう、夏のひとり作業



農作業中の熱中症死亡事故の多くは1人作業で発生しています。

大切な人の命を守るため、
家族や地域で声をかけあいましょう！

出典：農林水産省「熱中症対策パンフレット」より

〔補足資料〕

1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（8月17日現在）

コシヒカリ

- 生育調査ほの出穂期は県平均で平年より5日早い7月29日でした。

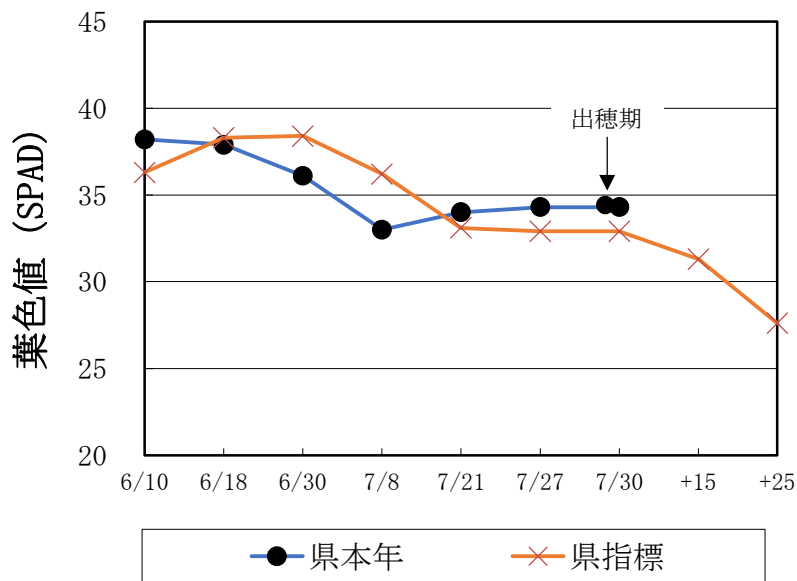
項目	本年	平年	平年差
出穂期	7月29日	8月3日	-5

注）県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡）

- 出穂期の葉色は指標値と比べ「やや濃い」の状況でした。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値差
出穂期葉色 (SPAD値)	34.2	32.9	やや濃い	+1.3

注）県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡）



生育調査ほにおける葉色の推移

新 之 助

○ 生育調査ほの出穂期は県平均で平年より 3 日早い 8 月 8 日でした。

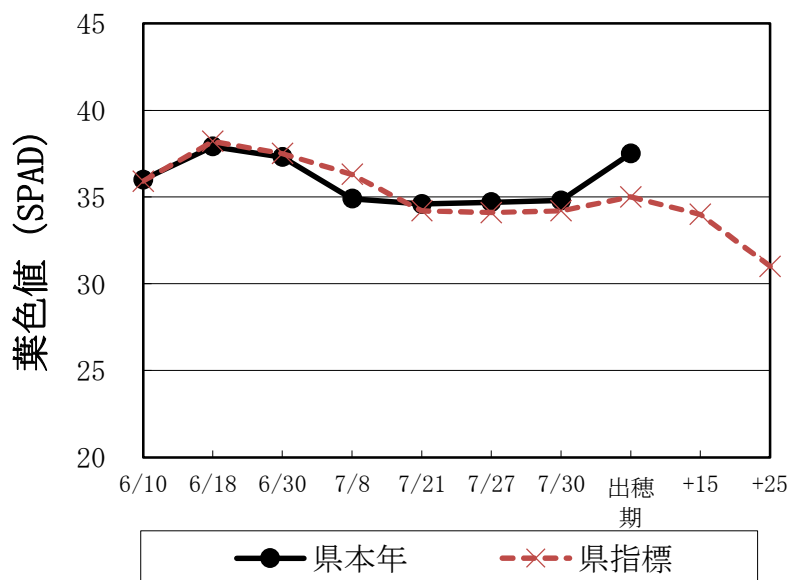
項目	本年	平年	平年差
出穂期	8 月 8 日	8 月 11 日	－ 3

注) 県内全域の 14 生育調査ほデータの平均値 (田植え 5 月 19 日、栽植密度 16.1 株/㎡)

○ 出穂期の葉色は指標値と比べ「濃い」状況でした。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値差
出穂期葉色 (SPAD 値)	37.5	35.0	濃い	+2.5

注) 県内全域の 14 生育調査ほデータの平均値 (田植え 5 月 19 日、栽植密度 16.1 株/㎡)



生育調査ほにおける葉色の推移

こしいぶき (参考)

○ 作物研究センターの出穂期は平年より 6 日早い 7 月 21 日でした。

項目	本年	平年	平年差
出穂期	7 月 21 日	7 月 27 日	- 6

注 1) 化学肥料栽培。田植え 5 月 11 日、栽植密度 20.5 株/㎡

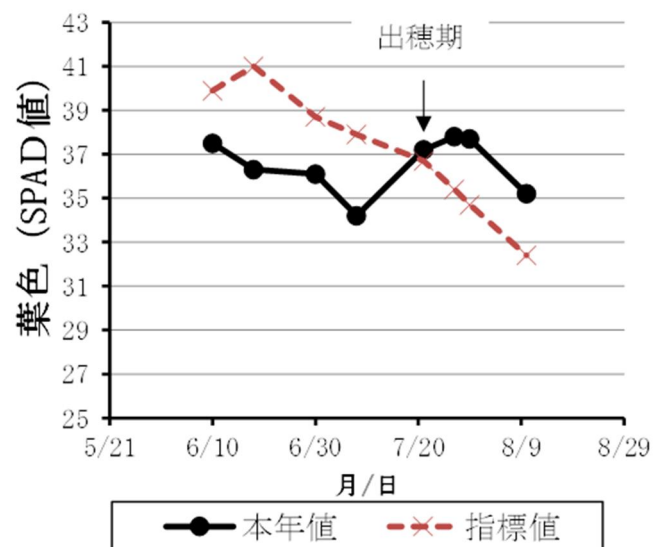
注 2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量 3.0kg/10a
(1.5 kg × 2 回分施：1 回目 7 月 3 日、2 回目 7 月 10 日)

注 3) 幼穂形成期：7 月 3 日

注 4) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

○ 作物研究センターの出穂期の葉色は指標値と比べ「並」状況でした。

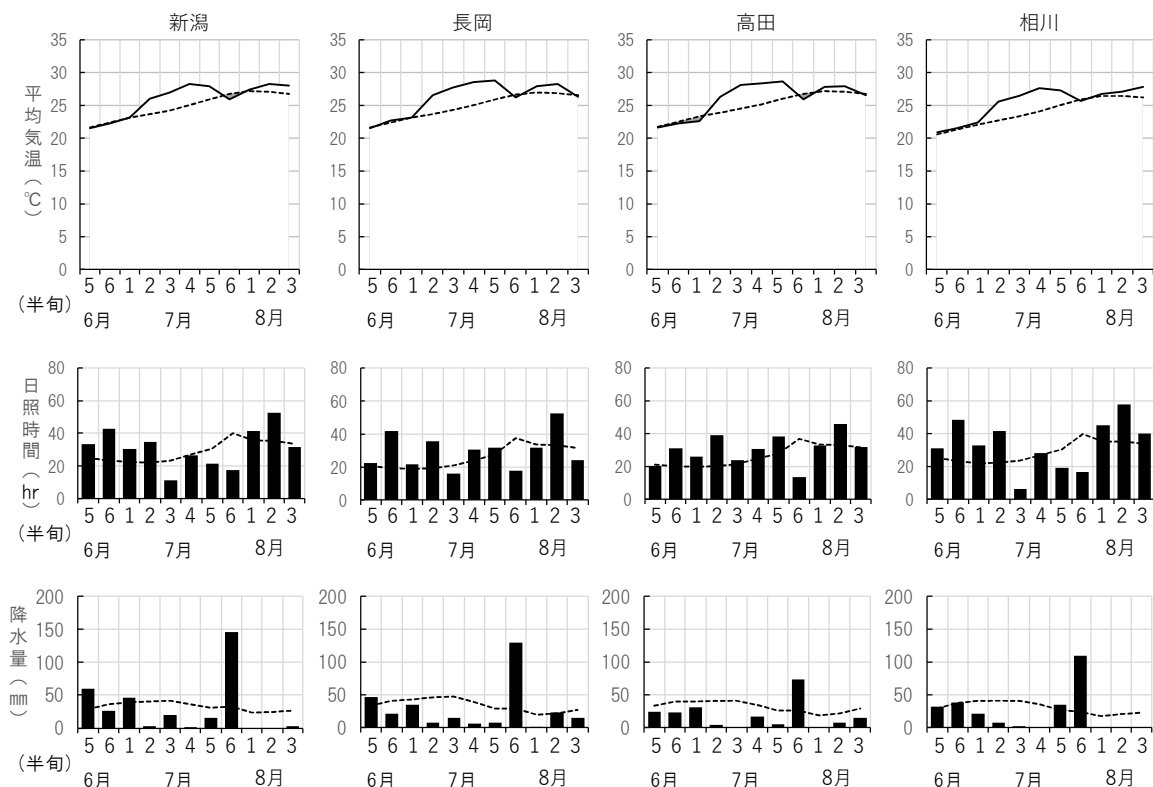
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値差
出穂期葉色 (SPAD 値)	37.2	36.7	並	+0.5



2 気象の推移と登熟気温

気象の推移（アメダスデータ）

7月第2半旬～5半旬は高温・少雨で推移し、7月第6半旬は大雨となった地域もありました。8月前半も高温傾向で推移しました。



本年の登熟気温

登熟気温の指標	コシヒカリ		
	本年 (出穂期 7/30)	前年 (出穂期 8/2)	平年 (出穂期 8/3)
出穂期 1～10 日後の平均日最高気温	31.7	30.5	31.3
出穂期 1～20 日後の平均気温	27.9	27.1	26.8
出穂期 5～24 日後の平均気温	28.0	27.4	26.5

注1) 新潟普及指導センターの出穂期、気温データはアメダス新潟、8/19以降は2週間気温予報（新潟）の最高気温と最低気温の平均値を平均気温として算出。

注2) 高温登熟年の判断のめやす

- ①出穂期 1～10 日後までの平均日最高気温が 33℃以上（胴割粒率の増加）
- ②出穂期 1～20 日後までの平均気温が 27℃以上（白未熟粒の多発誘因）
- ③出穂期 5～24 日後までの平均気温が 26℃以上（基部未熟粒の多発生）